

特集

# 開通間近

## 歴史とロマン、思いをつなぐ

# 八十里越

営業戦略室　☎34－5605

新潟県と福島県只見町を結ぶ国道289号「八十里越」の開通に向けた工事が進んでいます。
越後と会津を結ぶ「歴史の道 八十里越」峠道は、戊辰戦争の際に長岡藩家老の河井 継之助が率いる軍勢が撤退した道として、司馬 遼太郎の歴史小説「峠」でも広く知られています。
一里*が平地の十里にも匹敵するほどの難路であったことから、八十里越と呼ばれていたこの道は、江戸時代から昭和初期にかけては、越後から塩や海産物や刃物類が、会津からは漆や麻、絹糸、木材などの物資が人や馬によって運ばれ、物流や文化の往来を通じて地域の発展を支えてきました。
やがて、鉄道や自動車の普及とともに廃道となった峠道が、長い年月を経て、新しい道路として令和9年夏に再びつながろうとしています。
かつてのにぎわいと先人たちの思いが息づく新しい道。時空を超えてつながる、ロマンあふれる八十里越の魅力と、地域の人々の思いをお伝えします。

*一里:
昔の長さの単位で、現在のおよそ4kmに相当する距離



いくつも折れ曲がって続く九十九折



荷物を背負って運搬していた「背負子」(再現)

## 八十里越の歴史

### 西潟為蔵の功績

**八十里越の再生にかけた人生**
――西潟 為蔵(1845年~1923年)

現在の三条市福岡生まれ。水利行政に関わる中で、衰退していた八十里越を東西物流の重要拠点と見抜き、自費で測量や地図を作成し、道路整備を国や県に訴え続けました。彼の熱意は地域を動かし、現在の国道289号(旧八十里越)整備の礎を築いた地方開発の先駆者としてたたえられています。



1845年(弘化2年) 西潟為蔵　現三条市福岡に誕生
1889年(明治22年) 若くして地元の政治・水利行政に関わる。道路の掘削工事が着工。翌年完成

### 国道昇格

1970年(昭和45年) 主要地方道三条只見線から国道289号へ昇格

### 事業化

1986年(昭和61年) 建設省(現・国土交通省)により「国道289号八十里越」の道路整備事業化が決定

### 工事着手

1989年(平成元年) 工事着手

### 構造物建築の本格化

1998年(平成10年) 8号トンネル概成
2002年(平成14年) 11号トンネル、1号橋梁概成
2004年(平成16年) 10号トンネル概成
2007年(平成19年) 5号トンネル概成
2009年(平成21年) 8号橋梁概成

### 最長トンネルの完成

2010年(平成22年) 事業最長の9号トンネルが貫通(2012年度に概成)
2013年(平成25年) 4号橋梁概成
6月「秘境八十里越体感バス」の運行。開通前の建設現場や地域の歴史・自然を間近に体感できる事業として開始
2014年(平成26年) 森町小学校と只見町の小学校の3、4年生が未来の自分に向けた手紙をタイムカプセルに収め、8号トンネル(新潟県側坑口)付近に埋める
2016年(平成28年) 7号トンネル概成



子どもたちの願いを込めたタイムカプセル



9号トンネル貫通式

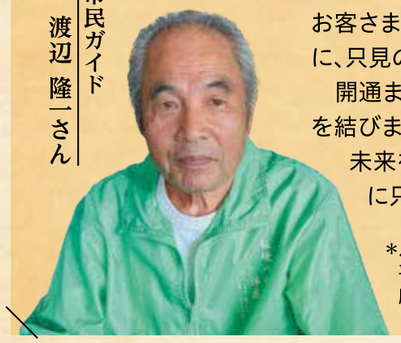
### 2号橋梁概成

2018年(平成30年) 2号橋梁概成、6号トンネル概成
7号橋梁概成
2019年(令和元年) 1号トンネル概成、3号橋梁概成
2020年(令和2年) 6号橋梁概成
2021年(令和3年) 2号トンネル概成、3号トンネル概成

### 5号橋梁の概成と土木構造物の全通

2022年(令和4年) A橋梁概成、5号橋梁(八十里越天空大橋)概成
県内屈指の橋脚高(最大約81m)を誇る4号トンネル概成
B橋梁概成
2024年(令和6年)
2025年(令和7年) 「秘境八十里越体感バス」事業終了
運行開始から延べ10、685人が参加
2026年(令和8年) 3月 4つの主要構造物の正式名称決定
現在、舗装・照明設備工などを最終推進中
2027年(令和9年) 夏(予定)暫定開通へ

## 八十里越体感バス*



市民ガイド
渡辺 隆一さん

幼少期から八十里越の話を聞いて育ちました。道路整備に関わったこともあります。昨年度までは約13年間、八十里越体感バスの市民ガイドとして八十里越の歴史や自身の体験などを語り、工事の移り変わりを見守ってきました。県内随一の高さを誇る5号橋梁や逆勾配のトンネルなど、世紀の大工事の現場を間近で体感できたことは忘れられない思い出です。
八十里越体感バスの車内では、かつてはブナ材を運んだ林道の話などにお客さまが喜んでくれました。県内外のお客さまの関心の高さに驚くとともに、只見のガイドの皆さんとの交流など、温かいつながりが生まれました。
開通まで40年という、わが人生の半分をかけた長年の思いが、いよいよ実を結びます。歴史や魅力を次の世代へ語り継ぎながら、この道が開く新しい未来を若者たちに託したいと思っています。開通したら、まずは妻と一緒に只見のおいしいおそばを食べに行きたいですね。

*八十里越体感バス:
平成25年から令和7年に運行した、国道289号の工事見学、秘境八十里越の豊かな自然や歴史を体験できるバスツアーです。




「世紀の大工事」とも言われる「国道289号八十里越道路」。
新潟県側の険しい山々や厳しい自然環境を克服するため、
20.8キロメートルの事業区間に建設された橋梁(きょうりょう)と
トンネルには最新の土木技術が駆使されています。
また、周辺の豊かな生態系に配慮し、
環境保全対策を重ねながら工事が進められています。

歴史や魅力を次の世代へ

国道289号
八十里越工事進捗状況
国土交通省長岡国道事務所ホームページ

三市町の
交流が分かる
まぼろしの街道八十里越街道ホームページ